

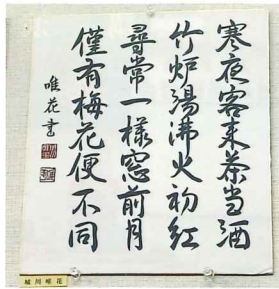
道南

書写書道の楽しさを 子ども達に伝えたい

苫小牧市 城川 唯花
(静岡県在住)

私は今、静岡県で書写書道子ども達に教える塾の講師として働いています。小学校1年生の時に習い事として書道教室に通い、中学、高校まで続けていました。高校でも書道部に所属し、将来も書道に関わる仕事がしたいと考えるようになり、高校を卒業後は地元を離れ滋賀県にある書道の専門学校に通いました。1年間書道漬けの毎日を送り、今年からは静岡県の書写書道の塾の講師として就職が決まりました。

専門学校に行きたいと伝えた時も静岡に就職が決まった時も母はいつでも応援してくれました。学校見学や入学式、卒業式も北海道



専門学校での作品



高校の卒業式



子ども達を指導中

から駆けつけてくれて、本当に感謝しています。

私が好きな事を仕事にしたいと思いついたのですが北海道母子寡婦福祉連合会の奨学金の支援があったから叶えることができたと思っています。今この仕事ができている事に感謝してこれからはたくさんの子ども達に書写書道の楽しさを知ってもらえる様な先生を目指します。本当にありがとうございます。

道東

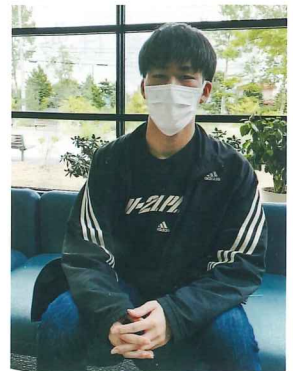
一級建築士を 目指して

釧路市 杉村 和真

私は今現在釧路工業高等専門学校に在籍しています。本来ならば今年3月には卒業をしていたはずなのですが、高水準の授業に理解が追いつかずいた所、起立性調節障害という身体症状を伴う病気にかかり、学校を休みがちになってしまいました。そのため留年を経験し、益々学校へ行く意欲がなくなってしまうました。

そこで母と連日話し合い、学費がかかっってしまうが、しっかり卒業をしよう、と決めました。アルバイトで学費を補助する事も考えましたが、授業について行けなくなる可能性を考慮し、母子寡婦福祉連合会様からの奨学金を利用していただきました。事で授業料の足しにさせていただきます。

何故私が中退を選ばずに通い続ける選択をしたのかというと、母



図書館にて、学習の合間の休憩

方の祖父の存在があったからです。祖父は設計、大工と何でもこなす人であった一方、自分にも他人にも厳しい人でした。そんな祖父に私もよく叱られました。そんな祖父に私になりたいと伝えた時の祖父の笑みが忘れられない事、そして応援すると言われた事が原動力になっているからです。

まだまだ一級建築士になるには学ばねばならない事もたくさんあります。しかし初心忘れるべからず、今後も身を引き締めて頑張ります。

令和6年度も
道新振興基金さん、
北洋銀行さん、
北海道CGCみどりと
こころの基金さんから
助成をいただき、
奨学金が
給付されました。



向かって かして翔く!